7月・8月号

真宗大谷派 sinsyu otaniha

第二十四組広報

dai 24so kouhou

発行日
2011年7月1日
第142号
発行責任者
組長　紵澤　成亙

真宗大谷派長浜教区第２４組
宗祖親鸞聖人７５０回御遠忌法要

６月１２日午後、唐川の長照寺様におきまして２４組の１２ヶ寺のご住職様と約１２０名の門徒会様が参拝され宗祖親鸞聖人の７５０回忌法要と社会部会主催の記念講演「いのちのふるえ」－人間を生きるとは－と題して千葉県我孫子市在住の評論家　芹沢俊介氏をお迎えして実施しました。東日本大震災に遭遇されたお話からはじまり、福島第一原発事故（人間の考える処理を超えている）をふまえ「いのちのふるえ」についてお話して下さいました。参加されました皆様は真剣に聴聞されていました。長照寺様と世話方の方々には何かとお世話になり誠に有難うございました。

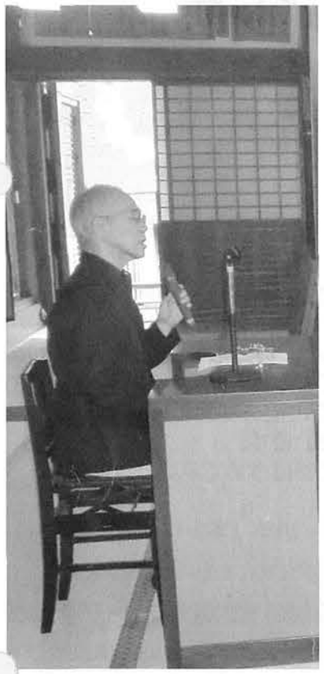
北川明宏（門徒部会・證光寺）

評論家　芹沢先生の「いのちのふるえ」　ー人間を生きるとはー

聴聞された方、それぞれが感じ、考えたこと、そして…。

親鸞聖人の教えをもとに貴重なお話をいただいた。

芹沢さんとのご縁は、同朋新聞で評論家の芹沢俊介さんの対談記事を興味深く読み、宗務所の方より芹沢さんをご紹介いただいたことに始まる。大変お忙しい中、24 組での講演を依頼したところ、快くお引受けいただき、今回は「いのちのふるえ」～人間を生きるとは～というテーマで講演いただいた。講演の中で芹沢さんは、東日本大震災は、人間の生き方や命そのものを根底からとらえ直す機会を与えられたのではないか、更に、原発事故においては、命が存続するかどうか、絶滅の脅威を感じざるを得ないほど深刻ではないだろうかと、問いかけられている。また、老いるという事は、社会的存在もなくなり無用の存在となると考えてしまうが、実は、「そこに在る事」自体に価値を見出すことが現代における新しい課題といえる事などを、親鸞聖人の教えをもとに貴重なお話をいただいた。ありがとうございました。当日の参加者は 120 名を超え、大変有意義なご遠忌の講演会を終えることができ感謝しています。



七里　藤吾（社会部会会長・覺勝寺）

私の生き方は世の中の出来事と無関係ではない。

「ひとりぼっちでは　いのちは　いのちになれない」先生の話を聞きながら同朋会館でいただいた日めくりのこの言葉を思い出していた。そうなんだ。やっぱり（いのち）は誰かに抱かれていたいのだ。ひとりでは生きていけないのだ。

「原初的母性的没頭」という言葉で先生は説明されたが胎児期から赤ちゃん期に母から夢中になり関わってもらった経験を持った子は、その後の人生の基本的財産を貰う事になるとのこと。（いのち）はさびしがり屋なのだろう。「そのまんまでいいんだよ」と無条件で抱かれたいのであろう。ひるがえって自己チューの私は、自分の都合で他人はもとより親をも、子をも切り刻んできた。（ふるえるいのち）を丸ごと抱いて来たか。否である。この私の自己優先の生き方が、先生のおっしゃる通り原発をはじめとする世のさまざまな悲しい出来事と無関係ではあろうはずは無い。ただただナムアミダブツ。

紙澤　瑩子（慶福寺・坊守）

苦境を乗り越え悟りを開いた聖人を思った。。。

先生の御住居千葉県は周知の通り、３月１１日の東日本大震災の被災地です。今回の震災は、地震津波は自然災害であり人が回復させる事が出来得る事故であるが、原子力発電所の放射線漏れの事故は人災であり、人間の営みを停止させてしまう事故である。人の命というものは、母親が子供を出産した直後の数週間ほどの間に、一心に子供（新しい命）に乳をやり育てることに没頭したときに生ずる。この一心な没頭を受けなかった子供は命の絶滅の恐怖にさらされる。これが原発によっておきる恐怖である。その恐怖の深さを知らなければならない。また一方、現実に何とか被災者を救おう、助けてあげたいとあせるのが人の心だが、親鸞聖人の「歎異抄」第４章には「聖道の慈悲には限りあり」即ち、人の力には限りがある。完全に他人を救う事は出来ず、返って無力感絶望感を抱くことになる。ただ浄土の慈悲におまかせすることである。浄土の救いを待つ事であると説いておられる。

この様な先生のお話を聞き、改めて苦境を乗り越え悟りを聴かれた親鸞聖人の偉大さ、750 年経った今も生きるこの教えに、只々頭が下がり、思わず御念仏がほとばしるばかりでありました。

藤田　勲（長浜教区推進員・猶存寺）

母性的没頭は子供の財産

長照寺さんで２４組のご遠忌がつとまるから行って下さいとご住職から誘われたのは同朋会の席でした。近くにあるコロリ観音さんへは行っても、長照寺さんの本堂へは、入ったことがなかったので誘いあわせてお参りしました。大きな本堂に、たくさんの２４組のごえんさん方のよいお声が響いていました。たくさんの同朋の方々と正信偈をあげていると、日常とは違う心地でした。講師の先生のお話はとってもむずかしく、顔をあげているのがやっとでしたが、子どもの事しか考えられないほどの母性的没頭は子供の成長にとって、基本的な財産になるのだという言葉が印象的でした。　東北地方の方々の震災で親や子を亡くされた方々のことを思いながら聴いていました。

林　恵子（長浜教区推進員・来入寺）

各部会からのご報告　青少年部会

子どもの集い　オリジナルMy念珠作り（腕輪念珠）

6月11日（土）10時から磯野の本宗寺において子どもたち45人の参加がありました。引率、保護者の方も多く来てくださいました。はじめに真宗宗歌、おつとめをして講師の早寄和典先生からお話をしていただきました。早寄先生は実家が仙台でおられ、震災後、被災地に赴き子どもたちや避難所の方々とお念珠を作ったり、という活動をされています。それらの活動を通して感じられていることなどを子どもたちに話してくださいました。

子どもたちはさまざまな色のビーズ、珠から好きなものを選び、好きな色のゴム紐に通していきました。子どもたちはみんな真剣に通して作っていました。親玉、ボサ玉に通すところ、紐の結び方の仕上げは難しいのでスタッフが行いました。出来上がるととても嬉しそうで何度も見せてくれました。みんなそれぞれ自分だけのオリジナルのお念珠が出来上がりとても嬉しそうでした。最後にお念珠についてのお話を聞き、自分で作ったお念珠で恩徳讃を歌い、お念仏を唱えました。日曜学校やおうちでお勤めするときなど使ってほしいなと思います。また、自分で作ったかわいいお念珠でおつとめが身近になればうれしいなぁと思います。
お念珠つくりの材料で残ったビーズや珠などは、被災地でのお念珠作りの活動に寄付させていただきました。自分で作ったお念珠を大事そうに持って帰ってくれる姿がとても素敵でした。

田川　恵美（青少年部会・長照寺）

婦人会　婦人会総会・研修会

6月19日(日)西野の充満寺様において、第24組婦人会代表者総会・研修会が開かれ平成22年度の事業報告、決算報告と平成23年度の事業計画、予算案がすべて承認されました。研修では、「ほとけさまに　であう」と題して、紀澤組長様の講話があり、‘ほとけさま’とは、自分のことを認めてくれた人、自分に真理を目ざめさせてくれた人すべてがほとけさまであるとお教えいただき、有意義な研修会となりました。46名の参加でした。

岩根　妙子（婦人会・明楽寺）

坊守会　坊守会総会

6月11日（土）明徳寺において総会が実施されました。6月末で坊守会長、副会長の交代が行われました。新役員は下記の通りです。

坊守会長　磯野　恵子（西徳寺）
副坊守会長　谷　寿子（誓海寺）

尚、新年度の坊守会日程は7月16日の坊守会において決定されます。

各部会　7・8月の行事予定

・7月　2日（土）	壮年会総会	浄教寺	16:30～
・7月　9日（土）	教化委員幹事会	慶福寺	19:00～
・7月16日（土）	教化委員会	来入寺	18:30～
・7月16日（土）	坊守会	西徳寺	9:30～

7月30日（土）　24組総会　来入寺　14:00～

＊毎年8月に行われる所長巡回は御遠忌のため、9月3日午前9時から来入寺で実施される予定です。